

第1回：国際機関と NGO

♪だんご3兄弟♪が大ヒットした今年を ODANGO（おだんご）元年と位置づけ、より効果的な国際協力に向けて、よりよい ODANGO（おだんご）作りを目指すために本シリーズを企画した。

昨今、国際協力における NGO の重要性が注目され、その役割というものはますます重要になってきている。その背景には、いわゆる先進国の「援助疲れ」や資金不足等の理由から「効率的な援助」が必要になってきている、という先進国側の事情もあるだろう。また、援助の裨益者であるべき地域住民の側から見れば、ODA は自分たちのためになっていない、という指摘もある。さらに、「援助の質」に関係する問題として、特に農業開発や地域開発関連のプロジェクトの場合、道路建設等のインフラ整備型プロジェクトに比べて、単に「箱もの」を作っただけでは「援助」は完了せず、プロジェクトの運営・実施（あるいはその前段階の企画・立案も）に関しても地域住民を巻き込んだ形で進めないと成功は難しいし、「箱」を作った後の管理・運営についてもおなじことが言えるのではないだろうか。

一方、NGO の行っている活動は草の根型で（そうでない活動形態のところもあるが）、地域及び地域住民と密着し地域住民のレベルでものごとを捉え、それらのニーズを優先した活動を実施している。ソフト関連のプロジェクトが増えてきている現在、先進国が ODA を実施する段において効果的にプロジェクトを進めるためにも NGO の協力を必要としているといえよう。そしてそのような背景から、「住民参加型」「小規模」「女性」「持続的」「環境保全型」等々といった言葉が最近の開発援助におけるキーワードとして現れてきているのではなかろうか。開発途上国の支援において、NGO と連携して活動している国際機関及び先進国の援助機関としては、国連（UNDP、UNEP 等）、世界銀行、CIDA、USAID、GTZ 等があり、これらの機関による NGO に対する支援の仕組みを簡単にまとめたものが以下の表である。

	UNDP	世界銀行	CIDA（カナダ）	USAID（米）
NGO との協力体制 & 目標	現地 NGO に直接援助、NGO へ事業の委託、NGO による事業分担、対話等の理解の増進、の4つの形態がある。	世銀支援のプロジェクトの計画及び実施段階に NGO が参加する、いわばパートナーシップの関係。参加型開発と現場 NGO の参加促進に重点。	カナダ国内の NGO がパートナーとして開発途上国の現地 NGO と提携してプロジェクトを形成し実施する。途上国のパートナーの能力の強化を目指す。	USA の国内 NGO を共同出資パートナーとしている。もう一つは、USAID のプログラムを運営する仲介機関としての2つの関わり方がある。
支援の対象分野	農業生産、給水、環境保全、小規模産業振興	貧困対策、農業、教育、人口、保健、栄養、上下水道	環境、人権、BHN、WID、インフラ整備、小規模産業振興	環境保全、小規模産業振興、HIV/AIDS 感染防止
予算規模	US\$10,000 ～65,000/件	US\$10,000 ～15,000/件	US\$15,000 ～218,000/件	US\$150,000 ～900,000/件
NGO の評価基準	在外事務所が NGO の法的立場、能力、適性等を評価	運営能力、経験、戦略等をチェックリストで評価	能力、影響力、運営、プログラム管理等を評価	活動実績、財務、運営・実施能力等を評価

このように各機関とも NGO との連携・協力による途上国の支援に力を注いでいる。本シリーズでは今後、NGO との連携に関わる我が国、そして国際耕種の取り組みについて紹介していく。